

# 学校だより

No.10

令和5年10月24日  
名古屋市立万場小学校

## 【11月 行事予定】

日	曜	行	事	日	曜	行	事
1	水	引き落とし日		16	木	出前授業（4年生 キャリア教育） あつまれ！！学びの会①	
2	木	鑑賞会 一斉下校		17	金		
3	金	文化の日		18	土		
4	土			19	日		
5	日			20	月	授業参観（5限 算数）	
6	月	なごやINGキャンペーン (～12月8日)		21	火	緊急地震速報対応訓練 スクールカウンセラー来校日	
7	火	読み聞かせ（5・6年生） スクールカウンセラー来校日 (4～6年生 こころの授業)		22	水	校外学習（5年生 トヨタ・味噌蔵） 給食試食会（1年生保護者の申込者他）	
8	水	読み聞かせ（1・2年生、 のぞみ・ひまわり・にじ）		23	木	勤労感謝の日	
9	木	学校生活アンケート（4～6年生）		24	金	県民の日学校ホリデー	
10	金	読み聞かせ（3・4年生）		25	土		
11	土			26	日		
12	日			27	月	委員会活動⑦（4～6年生）	
13	月	校外学習（2年生 富田図書館）		28	火	校外学習（4年生 瀬戸） 教育相談	
14	火	スクールカウンセラー来校日		29	水	教育相談	
15	水	栄養指導（2年生） 出前授業（4年生 キャリア教育）		30	木	教育相談 分団児童会・一斉下校・現地指導（5限）	

### 欠席や遅刻の連絡

欠席や遅刻の連絡を「なごやっ子あんしんメール」でお知らせいただき、ありがとうございます。これにより、速やかに子どもたちの状態を把握することができ助かります。今後ともよろしくお願ひします。お子様が遅刻して登校されるときは、安全のためにも、必ず保護者の方の付き添いをお願いします。

手順登録のプリントを紛失した方は、学校までご連絡ください。

### 外部講師の活用

本校では、校外学習や外部講師を活用した出前授業に力を入れています。教室ではできない体験をしたり、専門的な知識をもつ方からお話を聞いたりすることができます。ぜひご家庭でも、学んだことや印象に残ったことなどについてお子様とお話してください。

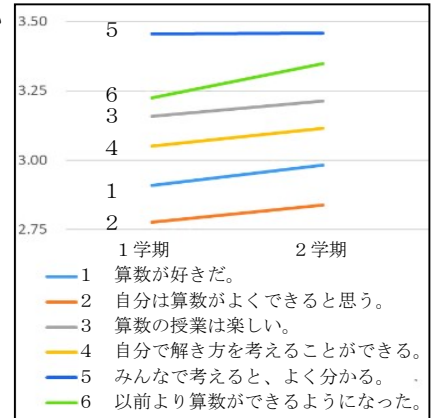
## 《学校努力点の目標を目指して！！》

今年度は、「どの子ども『できる・楽しい』授業を目指して～自分の考えを表現し、かわり高め合う学習の実現～」をテーマとして実践を進めています。11月の授業参観では、これまで取り組んできた学校努力点の算数の授業の様子を見ていただく予定です。

そこで、9月末には、教員全員で、努力点中間報告会を行いました。子どもたちの「算数アンケート」の結果を分析し、実践の成果と課題について検討し合いました。手立ての有効性について考察するなどして、教職員の共通理解を図りました。



【中間報告会の様子】



【算数アンケートの変容】

## 《万場小学校教員も子どもたちに負けず頑張っています！！》

10月中旬に、算数研究の第一人者である細水保宏氏を講師として本校にお招きし、教員の授業力向上に向けた研修を行いました。算数の授業を参観して助言をいただいたり、教材や授業の創り方についてお話していただいたりしました。

また、「ナゴヤ学びのコンパス」(名古屋市の学びの基本的な考え 下資料参照)の実現に向けて、具体的な授業の進め方、授業のあり方についても万場小学校教員全員で学び、理解を深めました。

今後も教職員一丸となって、一層の授業改善に取り組んでいきたいと思えます。



**ナゴヤ 学びのコンパス**

「学びのコンパス」は、名古屋市の全ての子どもが学びを通して自分らしく、幸せに生きていけるよう、名古屋市の学びの基本的な考えをまとめたものです。自律して学び続ける子どもの育成を目指し、「子ども中心の学び」を幼児期から青年期まで一貫して大切にしています。名古屋市の学校園では、「ナゴヤ学びのコンパス」を基に、全ての教職員が対話を重ねながら、それぞれの学校園や子どもたちの実態に合った教育について考え、実践を進めています。

名古屋教育委員会

**ナゴヤ 学びのコンパス**

全ての子どもが自分らしく、幸せに生きていくために、「子ども中心の学び」を幼児期から青年期まで一貫して大切にします。

**名古屋市の学校教育を通じて目指したい姿**

**実現したい市民の姿**  
自由な市民として互いを認め合い、共に社会を創造する

**目指したい子どもの姿**  
ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける

**重視したい学びの姿**  
自分に合ったペースや方法で学ぶ、多様な人と学び合う、夢中で探究する

**どの学校園でも大人が大切にしたいこと**  
全ての子どもは、適切な環境と支えを受けると、大人に助けを借りて、自己学習を進め、自ら課題を解決できるという状態で、「有難な学び手」であるに尽きます。私たち大人は、子どもを「有難な学び手」であると信じ、尊重、対話、チャレンジを大切にしながら、子どもたちに伸ばしてあげたいです。

子ども一人一人の思いや願いを尊重する、子どもと対話する、子どもの自分なりのチャレンジを大事にする